

# 「しよう」「しようか」の意味・用法 —日本語教育への提案—

## Meaning and Usage of *Shiyoo and Shiyoo ka* —Proposal for Japanese Language Education—

文学研究科国際言語教育専攻日本語教育専修修士課程修了

山下由美子

Yumiko Yamashita

- I. はじめに
- II. KY コーパスに見られる学習者の誤用例
- III. 日本語学習用テキスト及び教師用指導書での扱い
- IV. 先行研究
- V. 「しよう」「しようか」の用法
  - 1. 基本的用法
  - 2. その他の用法
- VI. アンケート調査
- VII. 日本語教育における指導の提案
- VIII. まとめと今後の課題

### I. はじめに

文末モダリティ表現である「ましょう」は動詞の「連用形+ましょう」と、形の作り方が易しいため、多くの日本語学習用テキストでは初級の前半で扱われる項目である。しかし、フォード丹羽(2005)はテキストでの提示用例自体が不自然であったり、対人関係に触れていなかったり、形式重視の扱いに留まっている点などから、導入において使用項目としての扱いと理解項目としての扱いを分ける必要があると指摘している。

また、「ましょう(以下、しよう)」「ましょうか(以下、しようか)」は学習者に定着しにくい項目としているが、なぜ定着しにくいのかその原因を探り解明していきたい。

さらに、「しよう」「しようか」が担い得る用法の分類を行い、日本語母語話者と日本語学習者のそれぞれの使用意識について、アンケート調査を行い分析をしていく。これらの研究・調査から、日本語教育における指導の提案をすることが本稿の目的である。

## II. KY コーパスに見られる学習者の誤用例

日本語学習者の「しよう」「しようか」の使用実態を見るために、KY コーパスを利用する。KY コーパスは OPI<sup>1</sup>であるという性質上、「しよう」「しようか」が丁寧体の「ましよう」「ましようか」の形で多く出現している。表 1 に示すように、「ね」「よ」など終助詞を含む「ましよう」は、テスター(以下、T)の発話数が 147 例(74.6%)、被験者(以下、S)が 50 例(25.4%)であった。S の使用率が T の 3 分の 1 以下であることから、「しよう」「しようか」は会話の主導権を握る立場にある場合に多く使用されることがわかる。

表 1

	T の発話数	S の発話数	合 計
～ましよう	78	25(うち誤用 7)	103
～ましようか	59	23(うち誤用 6)	82
～ましようね	5	1	6
～ましようかね	3	0	3
～ましようよ	2	1	3
合 計	147(74.6%)	50(25.4%)	197(100%)

以下では、日本語学習者が「しよう」「しようか」を適切に運用できていない例を KY コーパスから挙げ、それぞれの誤用を三つのタイプに分け考察する。

### 1. 応答における誤用

次の会話はそれぞれ応答として用いられた「ましよう」である。

(1) (ロールプレイで、S が T に男性を紹介することになる)

T(テスター): じゃあ、決まったら連絡ちょうだい

S(被験者) : はい、そうましよう (中国語話者・上級レベル)

⇒はい、そうします

(2) (OPI 終了時)

T: …はいじゃー、あの一これから 1 年間、〈\*\*\*\*〉はいはい、ね、一緒に、日本語勉強がんばりましよう

S: がんばりましよう

<sup>1</sup> OPI(Oral Proficiency Interview)は ACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages/全米外国語教育協会)により開発された、外国語の会話能力を測定するためのインタビューテスト。

⇒(はい)がんばります

T: はい、{笑い} じゃ今日はどうもありがとうございました

S: ありがとうございました (英語話者・中級下レベル)

(1)は「はい、そうします」など、基本的にはシヨウ形でなくスル形で答えるべきところである。なぜ学習者がこのような誤用を犯しているのか検討するために、『初級日本語』の次の例文を挙げる。

・さんぽに行きませんか。——はい、そうしましょう。

この場合、散歩に行くことを誘われた聞き手は、「はい、そうしましょう」と応答することで、自分自身も散歩に行くのを積極的に望んでいることを表し、あたかも互いに誘いあうかのように勧誘に応じている。

(1)はロールプレイでの会話として、Sが自分の知り合いの男性をTに紹介しようということになった場面であった。紹介してもらった側のTは「連絡ちょうだい」と依頼の形式を取っているが、むしろS自身が仲介役として、二人を会わせることに積極的に関わろうとするところから、「はい、そうしましょう」という応答が発せられたのであろう。

なお、Sが上級レベルである(1)のような誤用は、単に適切な運用ができていないという問題だけでなく、実際のコミュニケーション場面で使用すれば、对人的配慮を欠いた発言とも受け取られかねない。

(2)の場合、Sは「一緒に~ましょう」の典型的文型から勧誘であると受け取り、積極的な肯定の応答として「がんばりましょう」を使用しているのであろう。

## 2. 「ませんか」を使用すべき場合

次の会話は、それぞれロールプレイにおいてSがTを誘う場面での会話である。

### (3) (ロールプレイ)

S: Tさんですか、Sです、〈はい〉あの、〈ええ〉あ、来週わたしの友達で、〈ええ〉あーパーティーやりますが、いっしょに行きませんか

⇒いっしょに行きませんか

T: 来週のいつ

S: 来週の金曜日ですが (英語話者・上級)

### (4) (ロールプレイ、Tが自分を映画に誘うよう指示)

T: あーSさん、〈はい〉こんにちはー

S: 今は一、〈ええ〉えーっとー {笑い}、映画は一緒に行き、見ましょうか

⇒行きませんか／見ませんか

T: あきょうですか

S: 今です (中国語話者・中下)

(3)(4)の場面では、Sの発話時にはTは一緒に行くことが前提とはなっていないので、「(行き)ませんか」を使用するのが適当であるが、適切な運用ができていない。

山岡他(2010)では、聞き手を誘うための最初の《勧誘》表現は次のようなものであるとしている。

- ・一緒にテニスをしませんか?
- ・一緒にテニスでもどうですか?

しかし《勧誘》は、聞き手が躊躇したり考えたりすることもあり、一度の発言で実現できるとは限らない。聞き手がすぐに快諾しない場合に、再度《勧誘》を試みるとすれば、初めてつぎのような表現になるが、この表現は、初めの《勧誘》表現としては使いにくいとしている。

- ・一緒にテニスやろうよ。

日本語学習用テキストの多くは勧誘の形式として「しないか」と「しょうか」を扱っており、提出課を分けるなどの工夫はされている。しかし構造シラバス中心のテキストでは、文型項目としての学習に重点が置かれており、文脈として使い分ける練習はなかなか行えないことも両者の区別がつけにくい原因であると考えられる。

### 3. 助言要求における誤用

次の会話は、S自身で判断ができない事柄について、Tに助言要求を行う発言である。

(5) (TがSに、今度は自分に何か質問するように指示している)

T: はいはい、ただし、私はこの [大学名2] のね、偉い先生ですから、出来るだけ丁寧に聞いて下さい、〈あー〉いいですか、何でもいいですよ、はい、どうぞ

S: あのー、敬語使いましょうか

⇒敬語使ったほうがいいですか

T: うん、あのー何でもいいですよ (韓国語話者・中級中)

(6) (ロールプレイ、Tが警察官役、Sの部屋に泥棒が入り警察に通報する)

S: 花瓶、あのー高い花瓶 〈あーあーあーはい〉でしたけど、〈はい〉あの、泥棒に居ましたと思え、いいと思います、〈はい〉あのー、あのー、あーあーあのーアパートのドアは 〈はい〉壊れたんです、〈あー〉あのー大変ですねー、〈はーはーはー〉 どうしましようか

⇒どうしたらいいですか

T: えーと、花瓶が、ないんですね (英語話者・中級中)

(5)(6)の会話は「たほうがいいですか」や「たらいいですか」など、聞き手に助言を要求する発話に置き換えると、自然な発話となる。

(5)の発話は、おそらく S が T の発話内容をよく理解できていなかったために、確認をしたのであると思われる。S は自分自身で判断しかねたため聞き手である T に尋ねたのであるが、おそらくより丁寧に質問しようとしたために「ましようか」を使用したのであろう。

「ましようか」の使用が丁寧である例として、デパートなどの店員は次のような発話を行っている。

店員：こちら、お包みいたしましょうか。

この発話を「お包みしますか。」にすると、いかにも本来は包む必要のない物であるが、それでも包んでほしいのかというニュアンスを帯びてしまい、その答えを客に要求してしまうことになる。しかし、「お包みいたしましょうか。」と申し出の形をとれば、客はそれを承諾するか断るかのどちらかを選ばばいだけであり、客への負担を軽減する表現となる<sup>2</sup>。

しかし(5)(6)の会話においては、「ましようか」の使用が全く逆の効果をもたらしていることがわかる。対人的配慮の必要な実際のコミュニケーションで使用すれば、あたかも話し手の立場が聞き手よりも上であるかのような、ぞんざいな印象を与えてしまいかねない。

以上見てきたように、「しよう」「しようか」は、適切な使い方ができていないと不自然な表現になってしまうばかりか、本人の意に反し、対人的配慮に欠けた発話となってしまう危険性もある、使用において注意の必要な形式であることがわかる。

では、日本語教育の初級段階においては、日本語学習用テキストでどのように提示されているのか、また指導する教師は指導書を通じて、どのような指導上の注意が与えられているのか、次のⅢ章で比較検討する。

### Ⅲ. 日本語学習用テキスト及び教師用指導書での扱い

Ⅱ章で OPI における会話場面での日本語学習者の誤用例を見てきたが、学習者の日本語レベルが上がっても誤用が見られる原因は、初級段階での導入に原因があるのではないかと考えられる。

初級段階で導入されているにもかかわらず、OPI において学習者の誤用が見られた〈勧誘〉及び〈肯定の応答〉の用法を中心に、5 種類の日本語学習用テキスト及び、教師用指導書での「しよう」「しようか」の扱いを調べた。表 2 は、各テキストでの初出課を、用法ごとに挙げたものである。なお、「\*」は提出なしを表す。

<sup>2</sup> リーチのポライトネスの原理(Politeness Principle)にある、気配りの原則(Tact Maxim)、「他者の負担を最小限にせよ」にあたる。

表2 テキスト別各用法初出課

テキスト 用法	みんなの 日本語	げんき	初級日本語	新装版 日本語初級	新文化 初級日本語
勧誘	6 課	5 課	4 課	*	15 課
肯定の応答	6 課	5 課	11 課	5 課	15 課
申し出	14 課	6 課	*	8 課	9 課
意志形導入	31 課	15 課	20 課	30 課	20 課

『みんなの日本語』は「ましょう(か)」と「ませんか」の混同を避けるため、〈勧誘〉表現として「ませんか」で誘い、〈肯定の応答〉として「ましょう」で答えさせる対処が、次の例のようになされている。

(7) いっしょにビールを飲みませんか。——ええ、飲みましょう。

また、『新装版日本語初級』では、学習用テキストには提示されていないが、教師用指導書において、〈勧誘〉の「ませんか」は話者が相手の意向を尊重する態度を表しつつ、何かを一緒に行うよう勧誘する表現であるとしている。また、「ましょう」は「ませんか」より強い勧誘の表現として使用する場合と、相手の勧誘に賛同する話者の意志を表す応答として使用する場合があるとしている。以下に例を示す。

(8) A: 一緒に映画を見ましょう。〈強い勧誘〉

B: ええ、見ましょう。〈賛同〉

日本語学習用テキストでの「しよう」「しようか」の扱いは、形式的な混同を避けることに重点が置かれ、会話場面においても対人関係の設定がなされていない。しかし、IIのOPIの会話例で見られたように、「ませんか」と「ましょうか」の形式的な混同による誤用が、対人関係を無視した配慮に欠ける印象を与えてしまう。実際の日本語学習者の使用実態を見たとき、初級段階での「しよう」「しようか」の扱い方にはまだ多くの問題があると言えるだろう。

#### IV. 先行研究

まず「しよう」「しようか」をめぐる先行研究のうち、安達(1995)、日本語記述文法研究会編(2003)、姫野(2009)を取り上げ紹介する。安達(1995)は、「しないか」は聞き手に対する配慮を持つものに対し、「しよう」による〈勧誘〉は、聞き手に対する配慮を持たない強引な勧誘を表す形式であるとし、丁寧さの分出に違いが生じることも指摘している。

安達(1995)や日本語記述文法研究会編(2003)では〈勧誘〉を次の表3のように、話し手と聞き手が共同で行為の実行をする「グループ型」と、話し手の行為に聞き手を引き込もうとする「引き込み型」

に分けている。この中で「しようか」が「引き込み型」には使用できない例を以下に示す。

表 3

	しよう	しようか
グループ型	○	○
引き込み型	○	×

(9)\*今からカラオケに行くんだ。君もいっしょに行こうか。

⇒「しないか」が用いられることが多い。

姫野(2009)は、意志形は本来 1 人称に用いられ、聞き手を包括的 1 人称に取り込むことによって勧誘表現として用いられる「～ましょう(か)」に対し、「～ませんか」は本来 2 人称主語で用いられる文型であるが、日本語教育において、この両方を「勧誘表現」として一括りにして扱っていることが学習者の誤った理解を招いているのではないかと指摘している。誤用を未然に防ぐために、日本語教材において提出する例文や会話文を吟味し、会話参加者の人間関係を明確に提示し、適切な解説を加えるなど、日本語教育の更なる整備を訴えている。

また、工藤(1989)では「遠回しな命令」、仁田(1991)では「やわらげた命令」、樋口(1992)では「とおまわしの命令」、宮崎(2007)では「遠回しの命令」と、次の例のように動作主に 1 人称を含まないという点で共通の用法を定義しているが、それぞれ用法を表す表現が異なる場合もある。

(10)教師「みなさん、静かにしましょう」

その他、場合によっては「しよう」「しようか」が使用できるとする「命令的指示」(姫野1997)、「意志の表出」「決定の表明」「提案」「促し」(安達2002)、「意思決定前の迷いの段階」「意思の決定段階」(宮崎2005)、「説得」「指導」「宣言」「提案」「相談」(宮崎2009)など、日本語教育では導入されない用法も挙げられている。

以上の用法は、研究者によってその分類の仕方や用法の表現が異なっていることもあり、「しよう」「しようか」の分類やその説明は未だ充分になされているとはいえない。

## V. 「しよう」「しようか」の用法

### 1. 基本的用法

「しよう」「しようか」の用法を、1. 基本的用法、2. その他の用法の二つに分け、それぞれについて例を挙げ説明を加える。まず、姫野(1997、1998)の「行為指示」の有無を基準に「しよう」「しようか」の基本的用法を立てる。各用法に対し「行為者」「受益者」「決定権者」が誰であるか、そして各用法の日本語学習用テキストでも扱われる典型的な文型を挙げ、まとめたものが次の表 4 である。

表 4

行為指示	用 法	行為者	受益者	決定権者	典型的文型
○	勧誘(引き込み型)	SH・H <sup>3</sup>	SH・H	H	しないか、しよう
○	勧誘(グループ型)	SH	SH・H	H	しないか、しよう、しようか
×	申し出	S	H	H	しよう、しようか
×	意志決定に伴う宣言	S	* <sup>4</sup>	S	する、しよう
×	意志未定の表出	S	*	S	どうしよう(か)

## ① 勧誘(引き込み型)

条件：Sの実行しようとしている行為にHを引き込んでいく。「しようか」は引き込み型の勧誘としては機能しない。(安達 1995)

(11) あなたもこの饅頭を食べよう/\*食べようか。(安達 1995)

## ② 勧誘(グループ型)

条件：SとHをひとつのグループと見なし、HにもSと同じ行為の実行を求める。

(安達 1995)

(12) F088：もういい？じゃあごはん食べいこっか。

F152：そうしましょっか。(名大)

## ③ 申し出

条件：Hを行為者に含まず、Hの利益になると思われることを、Sの行為で実行しようとする行為で、決定権はHである。

(13) 「このベルクロの比翼仕立て(フライジャケット)いいですね。私もほしいな」

「お取り置きしましょっか」

「いえ、お金が貯まったらまた買いに来ます(笑)」(スタイリスト)

## ④ 意志決定に伴う宣言

Sが迷いの段階を経て意志決定をし、それを表明するための発言である。S自身の独話や心内発話として用いられる場合と、Hが存在し対話的に用いられる場合がある。迷いを経た決定段階であり、通常は「しようか」の疑問形式でなく「しよう」の形で現れる。

条件：行為志向的発話であるが、その発話自体が行為として完結している。

(山岡 2008 要約)

<sup>3</sup> Sは話し手、Hは聞き手、SHは話し手と聞き手を表す。

<sup>4</sup> \*は受益者が誰であるかが関与していないことを表す。



(14) (喫茶店で。F101 が注文で迷っている)

F093 : 私は好きだけど。そんなくどくないことない？

F101 : うーん、じゃ、キャラメルにしよう。(名大)

## ⑤ 意志未定の表出

S が意志決定をする前の迷いの段階にありながら、その迷いを発話として表す場合である。H が存在し対話的に「どうしよう」「いつにしよう」など疑問詞と共起して用いられる場合や、主に S の独話や心内発話として「行こうか帰ろうか」など選択疑問文が用いられる場合がある。

条件：発話自体が行為として完結するための、意志決定前の段階を表す。

(15) F036 : ケーキ食べる？

F057 : ケーキどうしよう。私、結構おなかいっぱいになっちゃった。(名大)

(16) アナタは、その時間には、必ず大なり小なり心が揺れる。もう何年もの間、ほとんど同じ問題に心をくわいてきた。飲もうか帰ろうか。一杯だけにしようか三杯までか。この○×式のようなテーマと選択をずっと繰り返してきたような気がする。(アナタ)

## 2. その他の用法

ここでは基本的用法には含まれないその他の用法で、「しよう」「しようか」の形式が用いられる場合を紹介する。

V 章と同様に、姫野(1997、1998)を基準にし、まとめたものが次の表 5 である。

表 5

行為指示	用法	行為者	受益者	決定権者	典型的文型
○	命令的指示	H	S	S	しろ、しなさい、してください
○	丁寧な指示	H	S・H	S	してください、お～ください
○	恩恵的指示	H	H	S	しなさい、してください
○	説得	H	SH・H	H	したほうがいい、しなさい
○	保護者的指示	H	*	S	しなさい、しようね
○	助言要求	S	S	S	どうしよう、どうしたらいいか
○	教示要求	S・SH	*	H	疑問詞～しよう(か)
○	提案要求	S・SH	*	S・H	疑問詞～しよう(か)
×	提案	*	*	*	したらどうか、しよう、しようか
×	助言	H・H(※) <sup>5</sup>	H	H	したらどうか、したほうがいい
×	非難	*	*	*	しなさい、しろ、するな

以下に各用法の例を挙げ説明する。

<sup>5</sup> 助言の行為者「H(※)」は不特定多数の H を指す。

### ① 命令的指示

山岡(2008)は、述語に授受補助動詞「てもらう」を用いれば、《命令》に用いることができ、非主語の与格が2人称に指定され、それが相手に対する拘束力を生む働きを發動しているとしている。

条件：SがHに行為遂行を求める権限を有しており、受益者はSである。

(17) 君、少し地方で休養してもらおうか。(山岡 2008)

(18) 「さて、そこをどいてもらおうか」

男が人質にナイフをちらつかせ、奈津樹を威圧しながらにじり寄ってくる。

「一分かった。分かったから、人質だけは傷つけないで。その彼女は気絶しているのよ。せめてズボンを上げてからいきなさい」 (ギルティイ)

### ② 丁寧な指示

条件：司会者など、当該場面において場を運営する立場にあるときに多く用いられる。「てもらう」が社会的上位者・職業的権威者でなければ使いにくいのに対し、当該場面の該当する立場にあり発話の権限を有していれば、下位者から上位者に対しても用いることができる点で、上の①命令的指示の「てもらう」とは異なる。

(19) (結婚式で)

司会者：それではお一人ずつスピーチをしていただきますしょう。

(20) (ラジオ番組でリスナーに対し)

DJ：それでは聞いていただきますしょう。

### ③ 恩惠的指示

条件：SがHに行為遂行を求める権限を有しており、受益者はHである。

(21) (医者が患者に対して)

「お風呂はやめときましょうか。」(清 2006)

### ④ 説得

条件：現在進行過程にある事柄や現在起こっている状況や状態を、Hに働きかけ説得を試み、現状を変化させることを目的とする。宮崎(2009)は、終助詞「よ」を伴うとしている。

(22) 祥介「まあ、落ち着けて。金は出すさ。あとは勝手にすればいい。だから、そういうの仕舞おうよ。窃盗だけでいいじゃない。それ使うと強盗になっちゃうよ」

男 「強盗じゃねえ！俺は泥棒だ！」

祥介「分かってるよ。だから、少し落ち着こうよ。この部屋の人間がいいって言ってるんだ。

何も心配することないだろ？な？」(テレビドラマ)

## ⑤ 保護者的指示

条件：対話的場面において、親や教師など指導的立場、保護観察者の立場にある S が、指導などを受ける立場にある H に対して発話を行う。また非対話的場面においては、S が専門的立場にあたり、S 自身がその方面の事情に精通していると自称していたりする場合に H や不特定の H に対し、教示として使用される。S が保護観察者の立場であったり、H が子供、あるいは H を子ども扱いしたり、素人扱いするような場合には、終助詞「ね」を伴うことが多い。

(23) 質問：カップ麺って毎日食べると体によくないでしょうか？

回答：よくないでしょうね。カップ麺は大量の麺を同じ油で揚げているため油が良くないです。

肝臓などに負担をかけることになると思います。毎日はやめとこうね。(Yahoo!知恵袋)

## ⑥ 助言要求

条件：S が S 自身の利益のために、H に対し、最善策の提供を要求する。決定権者は S である。

(24) 「大学生だって嘘言っちゃったことはどうしよう」

「本当は、事実を告白して、許してもらえるか、または愛想つかされるか、どっちかにはっきりしたほうがいいんでしょうね。…」(学問ノススメ)

## ⑦ 教示要求

条件：ある事柄や S の発話時以降の行為に関し、H から教示や指示を仰ぐための発話である。通常「疑問詞～しよう(か)」の形式をとる。

(25) 飛田は五十万の領収書を書きながら、

「残り八十万はどのようにしましうか」

「それは家内に内証の買い物だからいいよ」

「ハイ。わかりました」(蛙に化れ)

## ⑧ 提案要求

条件：ある事柄や S または S と H の発話時以降の行為に関し、H に意見や提案を求める発話である。但し、H の意見や提案に従う必要はない点で、教示要求とは異なる。通常「疑問詞～しよう(か)」の形式をとる。

(26) A：12時ですよ。早くごはんを食べに行きましょう。(勧誘)

B：そうですね。じゃ、行きましょう。(肯定の応答)

A：どこに座りましょうか。(提案要求)

B：あそこに座りましょう。(提案)(『新文化初級日本語』)

(27) (空き教室で会話を録音していたが、授業が始まるため場所を移すことになった)

F028: どこ行きましょう。

F004: うーん、どっかに逃げるとこある？ (名大)

(28) ((27)に引き続き、外に出てゆっくり話せるところを探している)

F004: ふーん。えーっと、どこ行きましょうか。

F028: どこ行きましょうね。

<間>

F004: どうしよっか。うーん、ベンチ、ここ。うん。うん、あそこにしようか。あそこのベンチで。(名大)

(28) の会話では、F004 が「どこ行きましょうか」と〈提案要求〉をしたが、聞き手である F028 からは提案は行われず逆に〈提案要求〉をされている。このように、実際の会話では、〈提案要求〉を行う際は、互いにいい案がないかと探り合うような場合が多く、日本語学習用テキストのように、〈提案要求〉に対しすぐに〈提案〉がなされるとは限らず、親しい友人同士や恋人同士のような関係では、しばらく互いに〈提案要求〉が続く場合もある。

## ⑨ 提案

条件: 特定もしくは不特定の H に対し、問題提起や問題解決、最善策について S が発話を行う。同意・了承を得ることが目標であり、H への行為指示はなく、受益者は不定である。

(29) (60 分間の録音時間について)

F004: そっか、そっか。うん。あつ、なんやかんやもう 5 6 分になった。

F028: はやつ。

<笑い>

F004: うん。60 分が最大なのねー。(はー) ちょっと切つとこうか。(はい、はいまあ移動の時間を抜いても、(うん) うん、まあ結構話したと思うので。(名大)

(30) 「その前に音楽をかけてくれないか。」

「フォーレにしましょうか。それともバーセルがいい？」(エチオピア)

## ⑩ 助言

条件: S は H に対し、行為遂行に際しての最善策を提供する。H は H 自身の意志によって、自身の利益のために S から提供された最善策を遂行する。また特定の H 目当てでない場合にも使用できる点で特殊である。<sup>6</sup>

<sup>6</sup>山岡(2008)は、通常は話し手と聞き手の間で《助言要求》と《助言》の会話の一まとまりである「連」が成立するが、《助言要求》がなくても、相手が《助言》を必要としているという認識があれば、《助言》のみが行われる場合もあるとしている。

## ⑩-1 特定な聞き手への助言

(31) 質問：肩が弱いです。ソフトボール投げも全然飛びません。バスケのフリースローも届きません。どこを鍛えれば肩が強くなれますか？強肩になりたいです。

回答：全身をバランスよく鍛えるのがよろしいです。

投げる動作は、腕や肩だけの動きでなく、足や背中も使った動き。だから全身を鍛えるべき。

(中略)

そのほか、投げ方も悪いと思われるので、野球の投手に関する本で研究。

以上試してみよう。(Yahoo!知恵袋)

## ⑩-2 不特定な聞き手への助言

ホームページでの呼びかけや看板などで多く見られる。対話的場面で用いられる用法ではなく不特定な聞き手が対象であるため、聞き手に対する直接的な「行為指示」を行っているとは言えない。

(32) みんなで飲酒運転を根絶しましょう! (政府広報オンライン)

(33) (「ワンポイントアドバイス」シートベルトを正しく着用しよう／妊娠中の着用)

①シートに深く腰掛け、正しい姿勢で乗車しましょう。

②腰ベルトは、お腹のふくらみを避け、腰骨の最も低い位置にくるように調整しましょう。

(HONDA)

## ⑪ 非難

条件：過去のある時点において参加者が当該の行為を遂行しなかったことに対し、「過去の時点において当該の行為を行うべきであった」「過去の時点においてなぜ当該の行為を行わなかったのか」という非難を表す。Sから参加者であるHに対し直接発話される場合と、参加者とHが別の人物である場合、参加者不在でHに対し発話される場合がある。

(34)(F023 と F107 が海外でバスに乗った際、降車ボタンを誰かが押すだろうと思っていたが誰も押さず、停留所を通り過ぎてしまった話)

F023：だれか押すと思ったんだよね。

F107：ほいで、押しやあいいのに押しやあへんかっただよね。

F128：<笑い>押そうよ。(名大)

(35) (イギリスで両替指示がうまく伝わらず、大量の5ポンド札を出されたときの話)

F107：なんでこんな5ポンド札が欲しいんだこいつらみたいなの。<笑い>

F128：変な人たちだ、変な人たち、変な人たちだなあと思ったんだよ。でも聞こうよね。(名大)

(34)では、バスの降車ボタンを押さなかった参加者であるHに対し、直接Sが「押そうよ」と発言

している。また、(35)では S が「聞こうよね」と発言しているが、この場合参加者はイギリスの銀行員であり参加者不在である。いずれも過去の出来事であり、それが過去の時点において行われなかった行為に対して発言している。

「行為指示型」表現は本来、まだ実現していない未来へ向かって当該行為を遂行するよう指示する表現である。過去の時点において「降車ボタンを押すべきであった」「本当に 5 ポンド札でよいのか確認してほしいかった、もしくはなぜ聞かなかったのか」ということに対し、直接的に非難を表す表現形式を用いて非難するのではなく、意志表現を用いることによりユーモアのニュアンスを含んだり、H や参加者への非難を緩和したりする働きを持つ。通常、S と H または参加者との関係は、対等もしくは H や参加者のほうが目下である場合にしか使えない。また終助詞「よ」の発音は低くつくことが特徴である。

## ⑫ 願望表出<sup>7</sup>

条件：S は当該事態の実現を欲しており、S の意志によってなし得る事態ではない。

(山岡ほか 2010)

(36) (F128 が母親に電話をかけている)

F128：・・・お母さん出んし。出んし。出ようよ。

<別の会話>

F128：もしもしお母さん？ごめんね。はい、すいません。ファックス届いた？(名大)

## VI. アンケート調査

「しよう」「しようか」の形式が担い得る用法の適切性について、日本語母語話者と日本語学習者とで、その認識と判断に違いがあるかについてアンケート調査を実施した。「しよう」「しようか」が担い得る用法と担い得ない用法を明らかにすることが狙いである。調査用紙は日本語母語話者用と日本語学習者用を使用した。設問内容は同一である。なお、個別調査として母語話者には「出身地(一番居住期間の長い地域)」、学習者には「日本語学習年数」をそれぞれ記入してもらった。巻末に資料として、母語話者用アンケートを添付する。

---

<sup>7</sup>仁田(1991)は、〈表出〉とは話し手の意志や希望や願望といった自らの心的な情意を、取り立てて他者への伝達を意図することなく発するといった発話・伝達的態度を表したものであると定義している。

そして動詞の命令形の形式を持ちながらも〈願望〉を表す例として次の 2 つの文を挙げている。

例 1) 明日天気になーれ！

例 2) 雨、雨、降れ、降れ。かあさんが蛇の目でお迎え嬉しいな。

〈願望〉では、事態実現に対する話し手の願望は存在するが、話し手の願望に沿う事態を実現し得る存在として聞き手を据えることはできないとしている。

## 1. 調査の概要

このアンケートは姫野(2009)を参考に作成し、日本の大学及び大学院で学ぶ留学生 58 名と、20 代から 60 代までの日本語母語話者 29 名を対象に、〈勧誘〉〈提案〉〈依頼〉〈勧め〉〈恩恵的指示〉〈遠回しの命令〉の各場面において「しよう」「しようか」の使用適切度の判断を求める調査を実施した。アンケート回答者の留学生は、日本語学習期間 6 か月から最長 14 年で、出身国・地域別に見ると、韓国 16 名、中国 11 名、台湾・香港・ロシア各 4 名、マレーシア・オーストラリア・ブラジル・カナダ各 2 名、フィリピン・ブルガリア・カンボジア・ボリビア・エジプト・アメリカ・フランス・ドミニカ・ネパール・モンゴル・日本各 1 名の計 58 名である。

アンケートでは各会話の文末を空欄にし、その部分に入れる「しよう」「しようか」形式を含む文末表現の適切度を、3(a~c)または 4(a~d)種類の選択肢それぞれについて判断してもらった。選択肢の適切度は「1 不適切」から「3 どちらとも言えない」「5 適切」までの 5 段階で判断してもらうよう求めた。

なお、表に示した数値は%で、小数点以下は四捨五入した。

## 2. 調査前予測

調査前予測としては、日本語教育で扱われる〈依頼〉と〈勧め〉の用法には、基本的に「しよう」「しようか」は使えないという仮説を立てた。その仮説の裏付けを行うことを目的に、アンケートに〈依頼〉と〈勧め〉の項目を加えた。

## 3. 調査結果

(1) 〈勧誘〉「大学で。後輩から先輩へ」

〈勧誘〉の発話行為を遂行する場面(会話 4)の選択肢に対する適切度の判断結果を、日本語母語話者(以下、NS)は表 6、日本語学習者(以下、NNS)は表 7 に示す。

表 6 「会話 4」 NS

		1	2	3	4	5	
後輩：～行こうってことになったんですけど、先輩も( )。	a	行きましょう	20	37	20	13	10
	b	行きましょうか	87	13	0	0	0
	c	行きませんか	0	0	0	3	97

表7 「会話4」NNS

			1	2	3	4	5
後輩：～行こうってことになったんですけど、先輩も( )。	a	行きましょう	24	31	17	19	9
	b	行きましょうか	34	14	19	19	14
	c	行きませんか	2	0	3	14	81

「(先輩も)行きましょうか」をNSは不適切な表現であると判断しているが、NNSは52%が適切度3以上と判断していることから、勧誘の場面においてNNSは「しないか」と「しようか」の使い分けがうまくできていない傾向があることがわかる。

(2) 〈提案〉「大学のゼミで。教授と学生たち。」

表8 「会話1：教授」NS

			1	2	3	4	5
教授：試験が終わったら、お疲れ様会でも( )。	a	しよう	3	17	27	33	20
	b	しようか	0	0	0	7	93
	c	しまししょう	10	13	17	30	30
	d	しまししょうか	7	7	13	20	53

表9 「会話1：教授」NNS

			1	2	3	4	5
教授：試験が終わったら、お疲れ様会でも( )。	a	しよう	19	17	16	26	22
	b	しようか	3	12	14	36	34
	c	しまししょう	5	12	17	41	24
	d	しまししょうか	10	3	9	24	53

「しようか」は友達や同等の立場の者同士以外でも、目上から目下に対して使用されることをNSは適切であると判断しているが、NNSはそれを高く評価していない。

(3) 〈依頼〉「大教室で。初対面の学生同士」

表10 「会話7」NS

			1	2	3	4	5
学生：すみません、教科書忘れちゃったんで、( )。	a	見せてください	23	33	20	10	13
	b	見せてもらってもいいですか	3	0	7	17	73
	c	見せてくれませんか	3	10	10	43	33
	d	一緒に見ましょう	83	17	0	0	0



表 11 「会話 7」 NNS

		1	2	3	4	5	
学生：すみません、教科書忘れちゃったんで、( )。	a	見せてください	24	29	19	21	9
	b	見せてもらってもいいですか	3	0	5	12	79
	c	見せてくれませんか	5	5	9	24	57
	d	一緒に見ましょう	57	28	10	10	3

「一緒に見ましょう」は、初対面の相手に依頼をする場面でありながら、相手に誘いかける表現となっており、NS は適切度 1、2 で 100% を占め、適切度 3 以上は 0% である。それに対し、NNS は適切度 3 以上の選択率が 23% あり、依頼における意志形の使用を許容する傾向も見られる。

## (4) 〈勧め〉「応接室。社員と訪問客」

表 12 「会話 8」 NS

		1	2	3	4	5	
社員：どうぞ、( )。	a	おかけください	0	0	0	3	97
	b	おかけいただけますか	67	20	10	3	0
	c	おかけになりましょう	97	3	0	0	0

表 13 「会話 8」 NNS

		1	2	3	4	5	
社員：どうぞ、( )。	a	おかけください	0	0	3	19	78
	b	おかけいただけますか	26	17	34	7	16
	c	おかけになりましょう	43	28	18	10	2

尊敬表現を意志形にした「おかけになりましょう」は誤用であるが、NNS は適切度 1 を選択したのは 43% にとどまっている。

## (5) 〈恩恵的指示〉「病院で。医者と患者」

表 14 「会話 2：医者」 NS

		1	2	3	4	5	
医者：しばらくたばこは( )。	a	やめておきましょう	0	7	7	23	63
	b	やめておきましょうか	13	10	23	17	40
	c	やめておきませんか	47	23	3	10	13
	d	吸わないでください	7	3	10	13	67

表 15 「会話 2 : 医者」 NNS

		1	2	3	4	5	
医者：しばらくたばこは( )。	a	やめておきましょう	5	14	22	36	22
	b	やめておきましょうか	16	33	26	14	12
	c	やめておきませんか	21	22	24	17	16
	d	吸わないでください	9	9	6	14	62

「(たばこは)やめておきましょう」「やめておきましょうか」は、実際の場面では使用されている表現形式である(清 2006)が、NNS は適切であるという判断が低く、特に「やめておきましょうか」はさらに低く評価している。

(6) 〈遠回しの命令〉

〈遠回しの命令〉は、工藤(1989)が掲示物などに見られ、1・2 人称の勧誘のそぶりを見せながら、実は 2 人称の遠回しな命令文か、一般人称の当為的な叙述文であるとし、仁田(1991)も動作主体に話し手を含まない看板などに見られる「やわらげた命令」としているものである。

表 16 「掲示 1」 NS

		1	2	3	4	5	
「出したゴミは( )。 」	a	持ち帰ってください	10	3	10	27	50
	b	持ち帰りましょう	3	0	0	7	90
	c	持ち帰りましょうか	84	13	3	0	0

表 17 「掲示 1」 NNS

		1	2	3	4	5	
「出したゴミは( )。 」	a	持ち帰ってください	0	2	10	22	64
	b	持ち帰りましょう	21	10	10	26	33
	c	持ち帰りましょうか	50	31	10	3	5

「(ゴミは)持ち帰りましょう」は、直接的な指示を表す形式「てください」を避けた表現形式であるが、NNS は適切であるという判断が 33%にとどまり、基本的用法に含まれない〈遠回しの命令〉のニュアンスまでは理解しにくいことがわかる。

このような不特定多数の読み手(聞き手)を対象とする場合、日本語ではあたかも勧誘のそぶりを見せながら、遠回しに命令する表現形式として「しよう」「ましょう」が使われているが、「くださ

い」よりもより遠回しであるという認識は、NNS は持ちにくいのであろう。

#### 4. まとめ

このアンケートでは〈勧誘〉〈提案〉〈依頼〉〈勧め〉〈恩恵的指示〉〈遠回しの命令〉の6つの用法において「しよう」「しようか」形式の使用の適切度を見てきたが、〈依頼〉と〈勧め〉においては表現形式そのものが非文であり、またどちらの用法においてもNSの適切度3以上の評価は皆無であったことから、「しよう」「しようか」は〈依頼〉〈勧め〉の用法には用いることができないことが示唆される。

### VII. 日本語教育における指導の提案

II章において日本語学習者の「しよう」「しようか」の運用における誤用の実例、III章において日本語学習用テキストでの扱いを考察してきた。またVI章でアンケート調査を行い、日本語母語話者と学習者の意識調査を行った。

これらの考察から、本章では日本語学習者にとって正しい運用に結び付きにくいのはなぜかを考え、日本語教育での扱いや指導上の注意点などについて提案を行いたい。

#### 1. 〈勧誘〉の形式「しないか」「しようか」混同の傾向

日本語教育での勧誘表現の扱いについて、姫野(2009)は1人称の意志形が勧誘表現に拡張した「しよう」「しようか」と、2人称主語で用いられる「しないか」を明示せず、両方を「勧誘表現」と一括りにした扱いをしていることが学習者の誤った理解を招いているのではないかと指摘している。

本稿のアンケート調査においても、日本語学習者は後輩から先輩への勧誘表現として、「先輩も一緒に行きましょうか」の「ましょうか」を高く評価する結果が出ており、OPIの誤用例からも「しようか」と「しないか」の混同が見られた。

日本語学習用テキストの教師用指導書での留意点を見ても、勧誘表現としての「しようか(ましょうか)」と「しないか(ませんか)」を、いかに混同させないようにするかという指導にポイントが置かれている。

このような矛盾に対し、「やさしい日本語」<sup>8</sup>を提唱したのが庵(2008、2009)である。

「やさしい日本語」は文法シラバスを採用し、ゼロビギナー対象で、全て産出レベルの文型項目からなるStep1と、Step1を終えた学習者向けで、理解レベルの文型項目も含まれるStep2からなる。この段階までを「初級」としている。この「やさしい日本語」の中で〈勧誘〉の「~ましょう」はStep2で理解レベルとして提示されている。次の表18は庵(2008、2009)の「やさしい日本語」Step2の文

<sup>8</sup> 「『日本人』の日本語」に至る中間段階の多段階的なステップのこと。多言語化していない現在の日本社会において生活者としての外国人が被る不利益をできるだけ軽減するために策定されるべきもの。

型項目一覧である。

表 18

産出レベル	
形態論	～て(テ形)      ～た(タ形)      辞書形      ～ない(ナイ形)
助詞	飛行機で東京から大阪まで帰ります。(から、まで：場所)
形式名詞	こと      もの
文型	～は…ことです      ～たり～たりします
ボイス	～ことができます      ～く／～に／～ようになります
アスペクト	～ています      (まだ) ～ていません      ～たことがあります
モダリティ(認識)	～と思います
モダリティ(対人)	～てください・～ないでください(依頼) ～てもいいですか(許可求め) ～たいんですが(願望、許可求め)
複文・接続詞	～て(「図書館に行って、本を借ります。」) ～てから(継起)      ～とき(時間)      ～たら(条件) ～けど(逆接、前置き) / ～。しかし、 ～ので(理由) / ～。なので、 ～ために／～ように／～ための(目的)
その他	～んです どうして…んですか?      ～からです
理解レベル	
モダリティ(対人)	～てもいいです(許可)      ～てはいけません(禁止) ～ましょう(勧誘)      ～たほうがいいです(当為) ～なさい(命令)
その他	昨日買った本(はこれです。)(名詞修飾) 田中さんが来るか(どうか)(教えてください。)(名詞化)

庵(2008、2009)は「やさしい日本語」の文型項目に、〈勧誘〉のもうひとつの表現形式「ませんか」は含んでいないため、「ませんか」の導入についてはうかがい知ることはできないが、学習者が「ませんか」の誤用を犯す場合と、「ましょう」「ましょうか」の誤用を犯す場合を比較すると、明らかに「ましょう」「ましょうか」の誤用は、次の例のように、相手に対し配慮を欠いてしまう恐れがある。

(37) T さんですか、S です、〈はい〉あの、〈ええ〉あ、来週わたしの友達で、〈ええ〉あーパーティーやりますが、いっしょに行きましょうか

しかし、筆者は「ませんか」と「ましょう」の混同の原因はそれぞれ課を分けて提出することにあると考える。次の表 19 は、Ⅲ章で取り上げた 5 種類の日本語学習用テキストの〈勧誘〉の「ましょう」と「ませんか」形式の提出課をそれぞれ挙げたものである。

表 19

	みんなの 日本語	げんき	初級日本語	新装版 日本語初級	新文化 初級日本語
ましょう	6 課	5 課	4 課	*	15 課
ませんか	6 課	3 課	19 課	5 課	17 課

『みんなの日本語』では同一課で提出されているが、「ましょう」は会話の形式としては提出されておらず、あくまでも〈肯定の応答〉として扱うよう指導書で述べられている。

多くのテキストでは、同じ〈勧誘〉の用法でありながら課をわけて提出しているが、それが却って混同を招いてしまうのではないだろうか。日本語学習がまだ不十分な学習者にとっては、「ます」より「ましょう」のほうが丁寧であるという認識を〈勧誘〉の用法にもあてはめてしまうため、「ませんか」を使用すべきところで「ましょう」を使用していることは想像に難くない。

したがって、混同を防ぐためには敢えて同一課で提出し、次の(38)のように一つの会話の例文として提出すべきであろう。

(38) A: B さん、日曜日いっしょに映画に行きませんか。〈勧誘〉

B: はい、いいですね。行きましょう。〈肯定の応答〉

A: では、何時に行きましょうか。〈提案要求〉

B: 12 時はどうですか。〈提案〉

A: はい、そうしましょう。〈肯定の応答〉

庵(2008、2009)が指摘するように、初級段階では〈勧誘〉の「ましょうか」は理解レベルに留めてもよいと考えるが、(38)のように「ませんか」で勧誘を行い、相手の了解を得てから〈提案要求〉を行うのである。あるいは映画の時間が決まっている場合なら、次の(39)のように「ましょうか」で〈提案〉を行うこともできる。

(39) A: B さん、日曜日 3 時から映画があるんですが、一緒に見に行きませんか。〈勧誘〉

B: はい、いいですね。行きましょう。〈肯定の応答〉

A: では、2 時に駅で会いましょうか。〈提案〉

B: はい、わかりました。

以上のように、単なる質問と答えのみでなく会話の「連」(山岡 2008)で提示し、「ませんか」と「ましょうか」の使い方の違いを説明することで、混同は避けられるのではないかと考える。

## 2. 〈勧誘〉に対する〈肯定の応答〉「(はい、) ~ましょう」について

日本語学習用テキストでは、〈勧誘〉に対する応答の表現として一様に「(はい、) ~ましょう」が導入されている。

『みんなの日本語』

(40) いっしょにビールを飲みませんか。——ええ、飲みましょう。

『げんき』

(41) A: 寒いですね。お茶を飲みましょうか。

B: そうしましょう。

『初級日本語』

(42) さんぽに行きませんか。——はい、そうしましょう。

『新装版日本語初級』

(43) あした、わたしといっしょにはこねへ行きませんか。——いいですね。行きましょう。

『新文化初級日本語』

(44) A: 12時ですよ。早くごはんを食べに行きましょう。

B: そうですね。じゃ、行きましょう。

また、『みんなの日本語』及び『新装版日本語初級』の教師用指導書では、〈勧誘〉に対する〈肯定の応答〉は、「誘いに対し積極的に応じる話し手の意志を表す」と説明している。

しかしどのテキストでも、提示されている会話例には対人関係が設定されていない。そこで『げんき』の会話例を用いて、仮に対人関係を設定してみると、次の(45)のような会話になるだろう。

(45) 上司: 寒いね。ちょっと一杯やろうか。

部下: (はい、) そうしましょう。

最近上司の誘いを断る新入社員が増えてきたという話も耳にするが、そのようなことが話題に上ること自体、昔は上司の誘いを断るなど考えられないことだったという含意があり、つまり「上司の誘い」が一種の命令的機能を持つものと言えよう。このような日本の社会的背景を踏まえて(45)を改めて見てみる。通常、部下は上司の誘いに対しよほどのことがない限り、「従う」のが自然である。したがって「そうしましょう」と意志形を用いて、積極的に自分の意志を表明して応じる答え方は、不自然であると同時に誘いに応じてやるというニュアンスも帯びてしまい、目下から目上に対して使用するには、配慮に欠けた失礼な表現とも受け取られかねない。

〈肯定の応答〉として「(はい、) ~ましょう」を使用するならば、積極的に自分の意志を表明できる

場面と対話相手を設定し、導入すべきである。

『みんなの日本語』は、テキストでは「ええ、～ましょう」を導入しているが、教師用指導書においてのみ「いいですね」や「わかりました」のほうが、より会話的な応答であるという説明がなされている。〈肯定の応答〉「ましょう」が不自然であるならば、対話相手との関係に関わらず一様使用できる応答として、「はい、ぜひ」や「はい、いいですね」のほうが、一様に「ましょう」を使用して犯す誤りよりは、相手に対する配慮を欠く怖れは少ないと言えるだろう。

### 3. 「いっしょに～ましょう」への条件反射

日本語学習用テキストでは〈勧誘〉の「ましょう」「ましょうか」の文には、「いっしょに」が伴い、セットとして提出されることが多い。

『みんなの日本語』

(46) いっしょにビールを飲みませんか。——ええ、飲みましょう。

『げんき』

(47) 一緒に図書館で勉強しましょう。

『初級日本語』

(48) いっしょにあのみせへいききましょう。

『新装版日本語初級』

(49) あした、わたしといっしょにはこねへ行きませんか。——いいですね。行きましょう。

『初級日本語』教師用指導書では、「いっしょに」は行動を共にしようという気持ちをさらにはつきりさせるとしている。

II章で挙げた OPI での学習者の誤用は次のものであった。

(2) T: …はいじゃー、あの一これから1年間、〈\*\*\*\*〉はいはい、ね、一緒に、日本語勉強  
がんばりましょう

S: がんばりましょう

T(テスト)の発話は「一緒に～(がんばり)ましょう」という〈勧誘〉表現の形式をとっており、これはあたかも勧誘しているかのようにして、実は「がんばりなさい」という命令もしくは激励をする「あたかも表現」<sup>9</sup>である。しかし、学習者はこの含意が理解できておらず、「いっしょに～ましょう」が聞こえたことで、積極的に条件反射として〈肯定の応答〉を行ったのであろう。

この「いっしょに～ましょう」の形式は、かなり早い段階から「教室での指示表現」として用いられているはずである。学習者も教室内でたびたび耳にしている表現であり、〈勧誘〉の「いっしょに

<sup>9</sup> 坂本・川口・蒲谷(1993)は、「依頼」と典型的に結び付く「してもらえますか」という表現形式を用いて、あたかも「依頼」をしているかのようにして、「指示・命令」という意図を叶える表現を「あたかも表現」としている。

～ましょう」導入の際、合わせて説明を行えば、無意識的な条件反射の軽減にはなるのではないだろうか。

以上見てきたように、話し手の立場や状況から、「いっしょに～ましょう」という典型的な〈勧誘〉表現の形式をとっていても〈勧誘〉ではない表現意図があることも、理解レベルとして導入すべきであると考えられる。

## VIII. まとめと今後の課題

本稿は、フォード丹羽(2005)が「しよう」「しようか」が学習者に定着しにくい項目であると指摘したことに着目し、定着しにくいとされる原因の解明及び「しよう」「しようか」が担い得る用法の分類、そして日本語教育への提案を行った。

しかし本研究では、日本語学習者の誤用例を KY コーパスのみで収集したため、OPI のテストとしての日本語母語話者に対し、被験者としての日本語学習者という対立的立場の関係上、「しよう」「しようか」の使用率に母語話者と学習者で 3 倍以上もの差が出てしまった。自然会話のデータを収集することができれば、使用率や使用される表現にも違いが出たと考えられる。

また「しよう」「しようか」の用法分類においてもさらに検討の余地があることと、より具体的な日本語教育への提案を行っていくことが今後の課題である。

## 参考文献

- 安達太郎(1995)「シナイカとシヨウとシヨウカー勧誘文」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上) 単文編』くろしお出版
- (2002)「第 1 章 意志・勧誘のモダリティ」宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃『新日本語文法選書 4 モダリティ』くろしお出版
- 庵功雄(2008)「『やさしい日本語』をめぐる」『多文化共生社会における日本語教育研究会第 4 回研究会予稿集』
- (2009a)「地域日本語教育と日本語教育文法—「やさしい日本語」という観点から」『人文・自然研究』3 一橋大学
- (2009b)「推量の『でしょう』に関する一考察—日本語教育文法の視点から—」『日本語教育』142 号
- 柏崎雅世(1993)『日本語における行為指示型表現の機能』くろしお出版
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1998)『敬語表現』大修館書店
- 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏編(2007)『役割語研究の地平』くろしお出版
- 工藤浩(1989)「現代日本語の文の叙法性 序章」『東京外国語大学論集』第 39 号
- グループ・ジャマシイ編著(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 坂本恵・川口義一・蒲谷宏(1993)「『行動展開表現』について—待遇表現教育のための基礎的考察—」『日本語教育』82 号
- 坂本恵・蒲谷宏(1995)「『申し出』表現について」『国語学研究与資料』19
- 鈴木由美子(2003)「待遇表現としての『提案表現』の『提示』類型に関する一考察」『早稲田大学日本語教育研究』2 号
- 清ルミ(2006)「禁止の場面における現実の言語表現—医師と美術館員の場合—」『世界の日本語教育』16
- 中道真木男・土井真美(1995)「日本語教育における依頼の扱い」『日本語学』14 巻 10 号 明治書院



- 仁田義雄(1989)「『行こうか戻ろうか』をめぐる一意志表現の疑問化—」『日本語学』8巻8号 明治書院  
 ——(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法④ 第8部モダリティ』くろしお出版
- 野原美和子・藤江希子・宮谷敦美(2001)「提案から同意に至る会話の分析—日本語母語話者と日本語非母語話者の課題解決を目指す会話データを基に—」『岐阜大学留学生センター紀要』
- 蓮沼昭子(1997)「終助詞『よ』の談話機能—その2—」『日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念—』凡人社
- 樋口文彦(1992)「勧誘文—しよう、しまし—」言語学研究会編『ことばの科学5』むぎ書房
- 姫野伴子(1997)「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要』第33巻第1号  
 ——(1998)「勧誘表現の位置—「しよう」「しようか」「しないか—」『日本語教育』96号  
 ——(2009)「行為指示型表現に対する母語話者と学習者の適切性判断」『明治大学国際日本学研究』1巻1号
- フォード丹羽順子(2005)「コミュニケーション能力を高める日本語教育文法」野田尚史・編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 松岡弘監修(2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書4「モダリティ」』くろしお出版
- 宮崎和人(2005)『現代日本語の疑問表現—疑いと確認要求—』ひつじ書房  
 ——(2007)「<まちのぞみ>と<発動>の間」『岡山大学文学部紀要』48  
 ——(2009)「談話における意志の形成」『岡山大学文学部紀要』52
- 森山卓郎(1990)「意志のモダリティについて」『阪大日本語研究』2
- 山岡政紀(2008)『発話機能論』くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹(2010)『コミュニケーションと配慮表現 日本語語用論入門』明治書院

## 参考資料

- 『初級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 三省堂
- 『初級日本語 文法解説[英語版]』東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 凡人社
- 『初級日本語 げんきⅠ』The Japan Times
- 『初級日本語 げんきⅡ』The Japan Times
- 『初級日本語 げんき 教師用指導書』The Japan Times
- 『新装版 日本語初級Ⅰ』東海大学留学生教育センター編 東海大学出版会
- 『新装版 日本語初級Ⅰ 文法説明 韓国語版』東海大学留学生教育センター編 東海大学出版会
- 『新装版 日本語初級Ⅱ 文法説明 韓国語版』東海大学留学生教育センター編 東海大学出版会
- 『新文化初級日本語Ⅰ』凡人社
- 『新文化初級日本語Ⅱ』凡人社
- 『新文化初級日本語Ⅰ 教師用指導手引き書』凡人社
- 『新文化初級日本語Ⅱ 教師用指導手引き書』凡人社
- 『みんなの日本語 初級Ⅰ本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語 初級Ⅰ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語 初級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク
- KY コーパス
- 名大会話コーパス
- <http://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/ndata/>
- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ(2009年度版)  
 政府広報オンライン
- <http://www.gov-online.go.jp/closeup/20101206.html> (2010/12/26)
- HONDA ホームページ
- <http://www.honda.co.jp/afterservice/advice/seatbelt/index.html>(2010/12/15)

## 用例出典

倉田シンジ(2003)『ギルティートレイン』マイクロマガジン社 (ギルティール)

清水義範(1989)『学問ノススメ』光文社 (学問ノススメ)

永倉萬治(1991)『アナタの年頃』講談社 (アナタ)

日本脚本家連盟編著(2001)『テレビドラマ代表作選集 2001年版』日本脚本家連盟  
(テレビドラマ)

蓮見圭一(2003)『ラジオ・エチオピア』文藝春秋 (エチオピア)

武藤直路(2000)『スタイリストになるには』ぺりかん社 (スタイリスト)

村田喜代子(2004)『人が見たら蛙に化れ』朝日新聞社 (蛙に化れ)

※( )は本文中での出典表記を表す

資料（日本語母語話者用）

アンケートのお願い

以下の会話または掲示について回答をお願いします。

(1) 1人目の発話者について

①会話の中の( )の部分の発話として、a~c(d)がどの程度適切か、1(不適切)~5(適切)の中からそれぞれ選んで、数字に○をつけてください。

②ほかにも適切な発話があると考えられる場合には、「d または e. その他」の( )に書き込んでください。

(2) 2人目の発話者について

2人目の発話がある場合、話しかけられた側が、相手の発話を受け入れる場合を想定して、もっとも適切だと思われる応答を1~5の中から選ぶか、( )に書き込んでください。

会話1 大学のゼミで。教授と学生たち。

教授：試験が終わったら、お疲れ様会でも( )。

どちらとも

不適切 言えない 適切

- |            |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. しよう     | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| b. しようか    | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| c. しましよう   | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| d. しましようか  | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| e. その他 ( ) |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

学生：はい、( )。

- |             |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. いいですね    | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| b. そうしましよう  | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| c. そうしましようか | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| d. その他 ( )  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

会話2 病院で。医者と患者。

医者：しばらくたばこは( )。

- |               |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. やめておきましょう  | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| b. やめておきましょうか | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |
| c. やめておきませんか  | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 | — | 5 |

d. 吸わないでください 1 — 2 — 3 — 4 — 5

e. その他 ( )

患者：わかりました。( )。

a. そうします 1 — 2 — 3 — 4 — 5

b. そうしましょう 1 — 2 — 3 — 4 — 5

c. そうしましょうか 1 — 2 — 3 — 4 — 5

d. その他 ( )

### 会話3 大学の授業終わりに。友人同士。

学生A：ねえ。ご飯食べに( )。

a. 行こう 1 — 2 — 3 — 4 — 5

b. 行こうか 1 — 2 — 3 — 4 — 5

c. 行かない？ 1 — 2 — 3 — 4 — 5

d. その他 ( )

### 会話4 大学で。先輩と後輩。

後輩：明日、新入生たちと食事に行こうってことになったんですけど、先輩も( )。

a. 行きましょう 1 — 2 — 3 — 4 — 5

b. 行きましょうか 1 — 2 — 3 — 4 — 5

c. 行きませんか 1 — 2 — 3 — 4 — 5

d. その他 ( )

### 会話5 会社の終業時間。先輩と後輩。

後輩：まだ頭痛いなら、薬飲んで早く( )。

a. 休んだほうがいいですよ 1 — 2 — 3 — 4 — 5

b. 休んでください 1 — 2 — 3 — 4 — 5

c. 休みましょう 1 — 2 — 3 — 4 — 5

d. その他 ( )

### 会話6 会議で。社長と社員たち。

社長：よし、では今回はAプランで( )。

a. いこう 1 — 2 — 3 — 4 — 5

b. いこうか 1 — 2 — 3 — 4 — 5

- c. いかないか 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 d. その他 ( )

**会話7 大学の教室で。初対面の学生同士。**

学生A：すみません、教科書忘れちゃったんで、( )。

- a. 見せてください 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 b. 見せてもらってもいいですか 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 c. 見せてくれませんか 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 d. 一緒に見ましょう 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 e. その他 ( )

**会話8 応接室。社員と訪問客。**

社員：どうぞ、( )。

- a. おかけください。 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 b. おかけいただけますか。 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 c. おかけになりましょう。 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 d. その他 ( )

**掲示1 公園の立て看板。**

「出したゴミは( )。」

- a. 持ち帰ってください。 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 b. 持ち帰りましょう。 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 c. 持ち帰りましょうか。 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 d. その他 ( )

◇最後に、以下の質問にお答えください。性別と該当する年齢には○をつけてください。

- ・性別： 男性      女性
- ・年齢： 10代    20代    30代    40代    50代    60代    それ以上
- ・出身地(一番居住期間の長い地域) \_\_\_\_\_